

(このレターの正文は英語版です。この日本語版は参考のために用意したものです。)

2005年12月2日

親愛なる保護者の皆様：

坂本氏からの昨日の手紙をお読みになったことと思います。

審議会理事会は、将来の施設プランを示すことなく、また学校売却に取って代わる財政問題の解決策について保護者と会うことも拒否したまま、全会一致で学校施設の売却を可決しました。

坂本氏と理事たちは、学校業務における自分たちの覇権へのみなさんの挑戦に対する戦い、と彼らがみなす今回の件で、なんとしても勝利したいと考え続けられているようです。こうした文脈では、子供たちにとって正しいことをなすことは、第一に考慮される事項とはなりえません。

ここに至って裁判所が、理事たちがどのようにして決断を下したかを吟味することになり、その過程で保護者の声がついに取り上げられることとなります。ほとんどのみなさんは、過去数ヶ月に渡る審議会と理事たちの記録の直接の証人です。そしてみなさんが繰り返し行った投票や数々の審議会の事項に関するご意見は、審議会の言葉と行動の間の矛盾を示してきました。

私は、最近みなさんが行った坂本氏の辞任請願を含む、売却に反対する PTA の次の局面について、みなさんとお話する機会を持つつもりです。理事たちはみなさんの請願を拒否しましたが、今後この請願はニューヨーク州に持ち込まれることとなります。

私は、これらの嘆願を裁判所に持ち込むべく、みなさんと一緒に働きたいと思っています。みなさんは大変な逆境において勇気を見せてくれました。これは多数の方が雇い主から直接の圧力を受けられたことを含みます。みなさんは安易な道を選ぶことも、みなさん自身の原理原則を曲げて妥協することも拒否されました。みなさんは誠実さと正義の側に力強く立ち、そのことによって、みなさんの子供たちにとっての立派な実例を打ち立ててくれました。

心を込めて、

PTA 会長

EF Jachmann